新编日语概说简明教程

王雪松 胡婧 编著

【日】野田昭子 校正

WUHAN UNIVERSITY PRESS
武汉大学出版社

武汉理工大学研究生教材建设基金资金出版

新编日语概说简明教程

王雪松 胡婧 编著

【日】野田昭子 校正

WUHAN UNIVERSITY PRESS

武汉大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

新编日语概说简明教程/王雪松,胡婧编著.—武汉:武汉大学出版社,2015.5

ISBN 978-7-307-15437-7

Ⅰ.新… Ⅱ.①王… ②胡… Ⅲ.日语—高等学校—教材 Ⅳ.H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2015)第 056471 号

封面图片为上海富昱特授权使用(ⓒ IMAGEMORE Co., Ltd.)

责任编辑:谢群英　　责任校对:汪欣怡　　版式设计:马　佳

出版发行:**武汉大学出版社**　(430072　武昌　珞珈山)

(电子邮件:cbs22@whu.edu.cn 网址:www.wdp.com.cn)

印刷:湖北民政印刷厂

开本:787×1092　1/16　印张:10　字数:237 千字　插页:1

版次:2015 年 5 月第 1 版　　2015 年 5 月第 1 次印刷

ISBN 978-7-307-15437-7　　定价:23.00 元

版权所有,不得翻印;凡购买我社的图书,如有质量问题,请与当地图书销售部门联系调换。

前　言

日本是中国一衣带水的邻邦。两国建交以来，特别是我国实行改革开放政策以来，两国的经贸往来、文化交流日趋频繁。谈到日本，很多人脑海中浮现的是日本的经济腾飞。日本这个二战后经济萧条、民生凋敝的战败国，经过数十年的努力拼搏一跃成为世界经济大国，人们对此惊叹不已，但对日本的山川风物、历史沿革、政治经济、文化教育、风土人情，人们了解得并不多。虽然日本不是拥有几千年历史的古国，更谈不上博大精深的国学文化，但日本独特的地理位置、自然环境和历史条件，都深深地影响着日本国人的心理，并反映到其语言、文字以及风俗文化之中。语言是对以往社会生活的全面反映。认识一个国家、一个民族的有效途径就是学习、研究其语言、文字。

对于日语学习者来说，提高语言学习能力不能仅仅停留在单词、语法、句子结构等语言实践上，还必须不断地加深对日本历史、民族文化和传统知识的了解。通过学习日本文化，不仅可以了解日本的发展进程和民族特点以及思想意识，也可以为进一步提高日语水平打下坚实的基础。

本教材旨在全面介绍分析现代日语的状况、特点和研究方法等，可供高等院校日语专业教学及研究生基础课程使用，也可供日语自学者及日语工作者参考使用。作为日语专业使用的教材，可以根据课时安排和教学目的有重点地讲解某些章节。

本书共分八章，分别是：第 1 章语言；第 2 章语音；第 3 章文字；第 4 章词汇；第 5 章语法；第 6 章文章的书写规则；第 7 章方言；第 8 章日语研究史。

本教材的特色是深入浅出、由点及面，对日语进行了概说，使日语学习者对日语有全面、直观的了解，如：日语语音的特色及其音节变化规律、日语汉字与汉语汉字的异同、日语文章的书写规则、日语单词的构造及词义比较、词的位相、日语词类辨析以及各种词类使用时应注意的问题。具体特点如下：

1. 言简意赅、浅显易懂，书中使用了一些表格。

2. 在尊重事实的前提下，编者对多本教材、参考书中的例句去繁就简，书中内容均用日语解说。

3. 反义词表附在附录中，以备学习者查询。

为使本教材严谨、地道，作者根据多年的教学实践和经验，在编撰过程中，邀请了日本友人野田昭子、藤海紫津子、北川秀子女士对此书做了细致的审读，并对此书进行了校正。在此向她们那种不为名利、默默奉献、全力支持中国日语教育事业的崇高精神表示深深的敬意和由衷的感谢。此外，武汉大学出版社为此书的出版给予了很多帮助，在此一并表示感谢。

考虑到教材的特点，在编撰过程中参考了一些教材、辞典、参考书等，并引用了其中的部分内容，详见参考书目。在此，谨向那些教材、辞典、参考书的作者以及出版社表示衷心的谢意。

由于编者水平有限，谬误在所难免，敬请读者批评指正。

编者

2015 年 2 月

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

まえがき

中日両国間の各分野にわたる交流が高まるにつれて、言語上におけるコミュニケーションの伝達も日増しに盛んになっている。このような時代の流れの中で、言語の重要性がますます多くの人々に認識されつつある。中国で多くの若者が「外国語としての日本語」を学んでいる。しかし、日本と日本人の「実際の姿」をどれだけ理解してもらっているのであろうか。日本との友好を深めるためにも、日本のことをできるだけたくさん知って、真の日本を理解できる日本語教育が必要だと痛感している。

外国語を学ぶ大きな目的は言うまでもなく外国の言葉を読んだり、書いたり、話したりすることであるが、「語学」を通して、その国の社会や文化や人の考え方・心情などを理解できれば、友好増進に大きく貢献することができると信じる。

本教材は、日本語を勉強するに際して、併せて日本の文化、社会など、日本の諸事情を日本語学習者に知ってもらいたいとの要望に応ずるために作成したのである。本教材の全体の構成は、八章からなっている。

本教材の特徴は、これまで国内で編纂された同類の教科書と違い、すべての解釈、説明に日本語を用いたことである。

本教材の編集にあたって、次のような諸点に注意をはらった。

(1)言語学習の目的をふまえ、その達成を反映させる。

(2)語学の基礎知識とのかかわりに注意する。また広い分野の利用者のために、分かりやすい例文をあげる。

(3)教材の難易度のバランスに注意する。

本教材をまとめるにあたって、日本友人の野田昭子、藤海紫津子、北川秀子方々からご指導・助言・校正の協力を頂いた。心をこめて野田昭子、藤海紫津子、北川秀子方々に謝意を表す。また、言語そのものの特

殊性を考えて、数多くの教科書・参考書・辞書から一部の内容を引用した。ここで参考として引用した教科書・参考書・辞書・出版社に感謝を申し上げる。

本教材は、日本語学習者の思考を深め、未来を拓く能力を伸ばすための一助となれば幸いである。

編者

2015年2月

目　次

1章　言語 …… 1
1　自然言語と人工言語 …… 1
2　言語の特性 …… 1
2.1　社会性 …… 1
2.2　連続性 …… 1
3　世界の言語 …… 2
3.1　言語の種類 …… 2
3.2　危機に瀕する言語 …… 2
4　日本語 …… 4
4.1　特徴 …… 4
4.2　使用者と分布 …… 5

2章　音韻 …… 6
1　音声と音声器官 …… 6
1.1　音声 …… 6
1.1.1　社会的な特性 …… 6
1.1.2　生理的な特性 …… 6
1.1.3　物理的な特性 …… 6
1.1.3.1　音高 …… 7
1.1.3.2　音強 …… 7
1.1.3.3　音長 …… 7
1.1.3.4　音色 …… 7
1.2　音声器官 …… 7
1.2.1　呼吸部分 …… 7
1.2.2　発声器官 …… 7
1.2.3　調音器官 …… 8

2 単音 …… 8
2.1 単音の分類方法と種類 …… 8
2.1.1 分類方法 …… 8
2.1.2 単音の種類 …… 8
2.1.2.1 母音 …… 8
2.1.2.2 子音 …… 9
2.1.2.3 半母音 …… 9
2.2 日本語の母音、子音、半母音 …… 9
2.2.1 母音 …… 9
2.2.1.1 口開けによる分類 …… 9
2.2.1.2 唇の丸めによる分類 …… 9
2.2.1.3 舌の頂上の位置の高低による分類 …… 9
2.2.1.4 舌の盛り上がりの頂上の位置による分類 …… 10
2.2.2 子音 …… 10
2.2.2.1 声帯の振動による分類 …… 10
2.2.2.2 調音器官による分類 …… 10
2.2.2.3 調音方法による分類 …… 11
2.2.2.4 日本語の子音に応じた仮名 …… 11
2.2.3 半母音 …… 11
2.3 国際音声記号 …… 11
3 音節 …… 12
3.1 音節の概念 …… 12
3.2 日本語の音節の構成 …… 12
3.2.1 一音素による …… 12
3.2.1.1 母音 …… 12
3.2.1.2 特殊な音素 …… 12
3.2.2 二音素による …… 12
3.2.2.1 子音+母音 …… 12
3.2.2.2 半母音+母音 …… 12
3.2.3 三音素による …… 13
3.3 音節の構造上での特徴 …… 13
3.4 日本語の音節のシステム …… 13
3.4.1 直音 …… 13
3.4.2 拗音 …… 14
3.4.2.1 開拗音 …… 14
3.4.2.2 合拗音（ごうようおん） …… 14
3.4.3 清音と濁音 …… 15

3.4.3.1 清音 …… 15
3.4.3.2 濁音 …… 15
3.4.3.3 半濁音 …… 16
4 音調 …… 16
4.1 音調の性質 …… 16
4.2 日本語の音調の分類 …… 16
4.2.1 平板型 …… 16
4.2.2 起伏型 …… 16
4.2.2.1 頭高（あたまたか）型 …… 16
4.2.2.2 中高型 …… 16
4.2.2.3 尾高（びたか）型 …… 16
4.3 日本語の音調の記号 …… 17
4.3.1 平板型 …… 17
4.3.2 起伏型 …… 17
4.4 日本語の音調の分布 …… 17
4.4.1 東京式アクセント …… 17
4.4.2 京阪式アクセント …… 17
4.4.3 両アクセントの境目 …… 17
4.4.4 その他の音調 …… 18
4.4.5 共通語の音調 …… 18
4.5 日本語の音調の特徴 …… 18
5 音素 …… 18
5.1 音素の性質およびその特徴 …… 18
5.2 日本語の音素 …… 19
5.2.1 母音音素 …… 19
5.2.2 子音音素 …… 19
5.2.3 半母音音素 …… 19
5.2.4 特殊音素 …… 19
6 五十音図と「イロハ歌」 …… 19
6.1 五十音図 …… 19
6.2 「イロハ歌」 …… 20

3章 文字 …… 21
1 文字と文字言語 …… 21
1.1 文字の形、音声、意義 …… 21
1.1.1 字形 …… 21
1.1.2 字音 …… 21

1.1.3 字義 …… 21
1.2 文字の種類 …… 22
1.2.1 表意文字 …… 22
1.2.2 表音文字 …… 22
1.3 日本の文字 …… 22
1.3.1 種類 …… 22
1.3.2 書き方 …… 22
1.3.2.1 混合使用 …… 22
1.3.2.2 単独で使う …… 22
2 漢字 …… 23
2.1 漢字の伝来 …… 23
2.2 漢字を日本語で読む …… 23
2.2.1 音読み …… 23
2.2.2 訓読み …… 23
2.3 漢字から平仮名への変化 …… 23
2.4 漢字の数と使用状況 …… 24
2.4.1 中国 …… 24
2.4.2 日本 …… 24
2.5 「常用漢字表」の組み立て …… 24
2.5.1 本表(1945字) …… 24
2.5.2 付表(110言葉) …… 25
2.6 漢字の組み立て …… 27
2.6.1 六書 …… 27
2.6.1.1 象形 …… 27
2.6.1.2 指事 …… 27
2.6.1.3 会意 …… 27
2.6.1.4 形声 …… 28
2.6.1.5 転注 …… 28
2.6.1.6 仮借 …… 28
2.6.2 日本の「国字」 …… 28
2.6.2.1 国語を書き表すのに用いる文字の総称 …… 28
2.6.2.2 漢字に倣って中国以外の国で作られた漢字体の文字 …… 28
2.6.2.3 次のように漢字仮名交じりにすること …… 29
2.6.3 漢字の形体 …… 29
2.6.3.1 点画 …… 29
2.6.3.2 筆順 …… 29
2.6.3.3 偏旁冠脚 …… 30
2.6.3.4 字体 …… 36

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

2.6.4 漢字の読み方 …… 36
2.6.4.1 音読みとその種類 …… 36
2.6.4.2 訓読み …… 37
2.6.4.3 「前音後訓」と「前訓後音」 …… 38
2.6.5 当て字 …… 39
3 仮名 …… 39
3.1 万葉仮名 …… 39
3.1.1 万葉仮名の性質 …… 39
3.1.2 万葉仮名の種類 …… 40
3.1.2.1 音仮名(借音仮名) …… 40
3.1.2.2 訓仮名(借訓仮名) …… 40
3.2 平仮名 …… 40
3.2.1 平仮名の性質 …… 40
3.2.2 平仮名の字源と漢字 …… 41
3.3 片仮名 …… 41
3.3.1 片仮名の性質 …… 41
3.3.2 片仮名の字源と漢字 …… 41
3.3.3 片仮名の使用場面 …… 42
3.4 ローマ字 …… 43
3.4.1 ローマ字の定義 …… 43
3.4.2 ローマ字の伝来 …… 43
3.4.2.1 ヘボン式 …… 43
3.4.2.2 日本式 …… 44
3.4.2.3 訓令式 …… 45

4章 語彙 …… 47
1 語彙の分類 …… 47
1.1 語形による分類 …… 47
1.1.1 語の構造から …… 47
1.1.1.1 単純語 …… 47
1.1.1.2 合成語 …… 47
1.1.2 語の音の形から …… 48
1.1.2.1 同音異字 …… 48
1.1.2.2 同訓異字 …… 48
1.1.3 語の書き方から …… 50
1.1.3.1 日本文字の種類 …… 50
1.1.3.2 書き方 …… 50
1.2 語義による分類 …… 50

1.2.1 意義体系から …… 50
1.2.2 語義の牲応関係から …… 51
1.2.2.1 類義語 …… 51
1.2.2.2 反対語 …… 51
1.2.3 語義の文法の働きから …… 51
1.2.3.1 品詞の種類 …… 51
1.2.3.2 品詞の分類 …… 52
1.2.4 体から …… 52
1.3 語源による分類 …… 52
1.3.1 和語 …… 53
1.3.2 漢語 …… 53
1.3.3 外来語 …… 53
1.3.4 混種語 …… 53
1.4 使用者による分類 …… 53
1.4.1 地域 …… 53
1.4.2 性別 …… 53
1.4.3 年齢 …… 53
1.5 待遇表現による分類 …… 54
1.6 音声的特徴による分類 …… 54
2 語彙の系統 …… 54
2.1 和語 …… 54
2.2 漢語 …… 54
2.2.1 日本語における漢語 …… 54
2.2.2 漢語音と日本語 …… 55
2.3 外来語 …… 55
2.3.1 外来語の定義 …… 55
2.3.2 外来語の種類 …… 55
2.4 混種語 …… 56
2.4.1 和語と漢語の結合 …… 56
2.4.2 外来語を含む混種語 …… 57
2.4.2.1 外来語を含む混種語 …… 57
2.4.2.2 和語、漢語、外来語の三種含む混種語 …… 57
2.4.2.3 外国語の用言化 …… 57
2.4.2.4 出自の異なる外来語の結合 …… 57
3 日本語の語彙の量 …… 57
4 辞書 …… 57
4.1 国語辞書 …… 58
4.2 漢和辞典 …… 58

4.3 収録内容 …… 58
4.4 主要な漢和辞典 …… 59

5章 文法 …… 61
1 文法と文法の研究 …… 61
1.1 文法の性質 …… 61
1.2 日本語の文法 …… 61
1.3 日本語文法の研究 …… 62
1.3.1 山田文法 …… 62
1.3.2 橋本文法 …… 63
1.3.3 時枝文法 …… 64
2 文と文節 …… 64
2.1 文の成分 …… 65
2.1.1 主語 …… 65
2.1.2 述語 …… 65
2.1.3 修飾語 …… 65
2.1.3.1 連体修飾語 …… 65
2.1.3.2 連用修飾語 …… 66
2.1.4 独立語 …… 66
2.1.4.1 感動 …… 66
2.1.4.2 呼びかけ …… 66
2.1.4.3 応答 …… 66
2.1.4.4 提示 …… 66
2.2 文の種類 …… 66
2.2.1 構成による分類 …… 66
2.2.1.1 単文 …… 67
2.2.1.2 複文 …… 67
2.2.1.3 重文 …… 67
2.2.2 意義による分類 …… 67
2.2.2.1 平叙文 …… 67
2.2.2.2 疑問文 …… 67
2.2.2.3 命令文 …… 67
2.2.2.4 感動文 …… 67
2.2.3 述語による分類 …… 68
2.2.3.1 名詞文 …… 68
2.2.3.2 動詞文 …… 68
2.2.3.3 形容詞 …… 68
2.2.3.4 形容動詞文 …… 68

3 品詞 …… 68
3.1 自立語付属語 …… 68
3.1.1 自立語の種類 …… 68
3.1.2 付属語の種類 …… 69
3.2 体言 …… 69
3.2.1 名詞 …… 69
3.2.1.1 意義による分類 …… 69
3.2.1.2 意味による分類 …… 69
3.2.1.3 名詞の構成 …… 70
3.2.1.4 名詞の転用 …… 70
3.2.2 数詞 …… 71
3.2.2.1 数詞の分類 …… 71
3.2.2.2 数詞の構成 …… 71
3.2.2.3 数詞の転用 …… 72
3.2.3 代名詞 …… 72
3.2.3.1 代名詞の分類 …… 72
3.2.3.2 転用 …… 73
3.2.4 形式体言 …… 74
3.2.4.1 形式体言の性質 …… 74
3.2.4.2 よく使われている形式体言 …… 74
3.3 用言 …… 74
3.3.1 動詞 …… 75
3.3.1.1 文法的意義による分類 …… 75
3.3.1.2 相による分類 …… 75
3.3.1.3 意志による分類 …… 76
3.3.1.4 活用 …… 76
3.3.1.5 自動詞と他動詞 …… 78
3.3.1.6 補助動詞 …… 79
3.3.1.7 動詞の転用 …… 79
3.3.2 形容詞 …… 79
3.3.2.1 形容詞の活用 …… 79
3.3.2.2 形容詞の構成 …… 80
3.3.2.3 形容詞の転用 …… 80
3.3.3 形容動詞 …… 80
3.3.3.1 形容動詞の活用 …… 80
3.3.3.2 形容動詞の語幹の使い方 …… 80
3.3.3.3 形容動詞の構成 …… 80
3.3.3.4 形容動詞の転用 …… 81

3.4 連体詞、副詞、接続詞、感動詞 …… 81
3.4.1 連体詞 …… 81
3.4.1.1 連体詞の性質 …… 81
3.4.1.2 連体詞の分類 …… 81
3.4.2 副詞 …… 82
3.4.2.1 状態(情態)の副詞 …… 82
3.4.2.2 程度の副詞 …… 82
3.4.2.3 叙述(陳述・呼応)の副詞 …… 83
3.4.2.4 副詞の構成 …… 83
3.4.2.5 副詞の転用 …… 84
3.4.3 接続詞 …… 84
3.4.3.1 対等関係の接続 …… 84
3.4.3.2 条件の接続 …… 85
3.4.4 感動詞 …… 85
3.4.4.1 感動 …… 86
3.4.4.2 呼びかけ …… 86
3.4.4.3 応答 …… 86
3.4.4.4 感動詞の構成 …… 86
3.4.5 助動詞 …… 86
3.4.5.1 接続による分類 …… 87
3.4.5.2 活用による分類 …… 87
3.4.5.3 意義による分類(活用表参照) …… 89
3.4.6 助詞 …… 90
3.4.6.1 格助詞 …… 90
3.4.6.2 接続助詞 …… 92
3.4.6.3 副助詞 …… 94
3.4.6.4 終助詞 …… 96
3.4.6.5 並列助詞 …… 98
3.4.6.6 係助詞 …… 100
4 敬語文法 …… 102
4.1 尊敬語 …… 102
4.1.1 動詞の語形変化 …… 102
4.1.2 形容詞、形容動詞の語形変化 …… 103
4.1.3 人名 …… 103
4.1.4 名詞 …… 103
4.1.5 尊敬語 …… 103
4.2 謙譲語 …… 104
4.2.1 語形変化 …… 104

4.2.2 名詞 …… 104
4.3 丁寧語 …… 105
4.3.1 ます …… 105
4.3.2 です …… 105

6章 文章およびいろいろな書式 …… 108
1 文章 …… 108
1.1 文章の種類 …… 108
1.2 常体と敬体 …… 108
2 原稿用紙の書き方 …… 109
3 はがきの書き方 …… 110
3.1 はがきの表裏 …… 110
3.2 宛名の書き方 …… 110
3.2.1 住所郵便番号 …… 110
3.2.2 ビル名、会社名 …… 111
3.2.3 氏名 …… 112
3.2.4 連名 …… 112
3.2.5 差出人の住所氏名 …… 112
4 手紙の書き方 …… 113
4.1 封筒の宛名の書き方 …… 113
4.2 頭語と結語 …… 114
4.3 時候の挨拶 …… 115
4.4 縦書きと横書き …… 116

7章 方言 …… 118
1 方言と言語の関係 …… 118
2 日本語の方言分類 …… 118
3 日本語の方言における特徴 …… 119
3.1 アイヌ語 …… 119
3.2 文法、音韻、アクセントの違い …… 119
3.3 言語の分化 …… 119
3.4 「周圏分布」 …… 120
3.5 「東西」の違い …… 120
3.5.1 東日本方言 …… 121
3.5.2 西日本方言 …… 123
3.5.3 九州方言 …… 125
3.5.4 琉球列島方言 …… 126
3.5.5 特殊な方言 …… 126

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com